

『イエスを仰ぎ見るべし』 ヘブル人への手紙12章1～3節 2016.10.16(聖日礼拝説教より)

『信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。…それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。』
ヘブル人への手紙12章1、3節

◆私たちの人生は何を目指し、どこへ向かうのか？

①ヘブル書 11～12 章に、人生は御国への旅であり、多くの仲間にもまれ、励まされつつゴールを目指すものがある。『多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いて…(1 節)』とは、雲の上の遥か遠くではなく「すぐ側」の意。クリスチャンには、イエス様の臨在ととりなしがあり、聖霊が祈りを天に届け(ローマ 8:26)、信仰を全うして生涯を駆け抜けた先輩たちの証(足跡)がすぐ側にあり、何より地上に教会の仲間の祈りと励ましがある！決して一人旅ではない！なので『…決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。空を打つような拳闘もしてはいません(Ⅰコリント 9:26)』と言える。天と地からの励ましがあり、『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない(ヘブル 13:5)／見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともに！(マタイ 28:20)』と言われるお方がおられる！

②その主がゴールまで導かれる！人生の旅の実際は、『四方八方から苦しめられ…途方にくれ…迫害され…倒される…／しかし窮することなく、行きづまることなく、見捨てられることもなく、滅びない！』。理由は明快！『イエスの(復活の)命が、この身に、明らかに現れた』から(Ⅱコリント4章)！◆約10年前、エレナは脳腫瘍で6才の生涯を終えたが、召天後、「ママ、パパ、グレース(妹)大好き！」という大量の手紙やメモが、家中から、1～2年経っても見つかり続け、『天国からの手紙』として話題に。余命宣告を受けなかったこの少女は、自ら死を予感し、日々衰えていく恐怖と不安の中、大切なメッセージを伝え続けた！人生に『愛され、愛すること以外に目的なし！』と言わんばかりに！地上の旅路で元気を失わず、迷子にならずに御国に着く唯一の秘訣は『信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいる(2節)』こと。イエス様の愛を見失わない生涯とは、御声を聴き(聖書を読み)、死を越えた希望をいただき、旅する仲間(教会)と共に歩むこと！

★今週、『わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはない』と言われた方を知らない方々に、自分に何ができるのか考えて過ごしたい！